

楽天モバイルの事例を基準とし、「金額表記の面積」「表示時間」という基準を設け  
なんば広場の景観維持と広告主のニーズのバランスをとる上で、下記のように考えます。



### ①金額表記の面積について

上記の動画（16:9）を確認すると、以下の構成になっています。

- 画面全体：左側の広告エリア（ピンク）+右側の常時表示エリア（マップ・QR等）
- 金額訴求部分：左下の白い帯部分（「Rakuten最強プラン」～「2,880円」の表記）視覚的に見積もると、この「金額が記載されている白いボックス」は画面全体のおよそ14%程度に収まっています。

### ②表示時間について

上記の動画（15秒）を確認すると、以下の構成になっています。

- 00:00～00:06頃：金額を含むプラン訴求
- 00:07以降：キャンペーン情報（パンダグッズ）、地域密着アニメーション（OSAKA）など、金額以外のアピール30秒の動画において、金額が表示されているのは冒頭の約7秒間です。

以上のことから「厳しすぎて出稿できない」という事態を避けつつ、「広場の品格」を守るため、「金額表記の面積は全体の20%以下」「表示時間は全体の50%以内」という原則での基準を設けてはいかがでしょうか。

〔内規案〕 → 一定期間運用後、審査基準として位置付け

①表示時間は全体の50%以内 → 動画全体(30秒)のうち15秒

②金額表記の面積は全体の20%以下



※「金額表記」の定義

①対象：「具体的な数字」と「それに付随する単位・プラン名」

②対象外：関連するキャッチコピーは含まない

例「ギガも通話も無制限」のようなキャッチコピー

→「無制限」の文字は大きく、「880円」は控えめというメリハリが効いている

※右側に店舗情報（地図やQRコードなど）等の金額に関係しない情報を配置することで、画面全体に占める「売り込み感」が薄まるため、このようなレイアウトを推奨事例として案内する。